

住民が、
地域コミュニティをつくり出すこと

= **文化**の生成

つながりの生成 = **まちのお茶の間**
居場所をつくる

(2) 「学び」と「人づくり」を一つなかりに

: 島根県益田市「人が育つまち」「人が輝くまち」

益田版カタリ場の種類

小学校カタリ場

小学生 × 高校生



「思春期」を終えた高校生から、
これから「思春期」の小学生へ

- 卒業前の高校3年生とこれから
中学生の小学5-6年生によるカタリ場
- 小学生が、中学・高校生活の未来
のイメージを描くことができる
- カタリ場を受けてきた高校生は、
学業生活を終える最後に、自分が
語り手として、小学生に語る

中学校カタリ場

中学生 × 地域の大人



「挨拶」の関係から、「相談」の関係へ

- 中学校区の地域の大人
と中学生によるカタリ場
- 公民館と連携をして、
地域の担い手がカタリ場に参加
- 地域で会う機会があるからこそ、
しっかり関係をつくり、その後の
地域での活動づくりのきっかけへ

高校カタリ場

高校生 × 企業の大人



ちょっと年上の先輩と、
ちょっと先の未来を描く

- 社会人の若手や大学生
と高校生によるカタリ場
- 市内企業と連携をして、
若手職員がカタリ場に参加
- 住んでいる地区を超えて、
多様な大人との繋がりづくり、
活動づくりのきっかけへ

リキヤリア教育、
はじめます。

子どもと大人の心に
"火"を灯す授業。

益田版

カタリ場

益田版
カタリ場

ライフキャリア
はじめます。

大人との対話を通して、

地域の大人 × 中高生



公民館を拠点とした、中学生地域活動チーム



【北仙道地区】
陽光会



【豊川地区】
とよかわっしょい



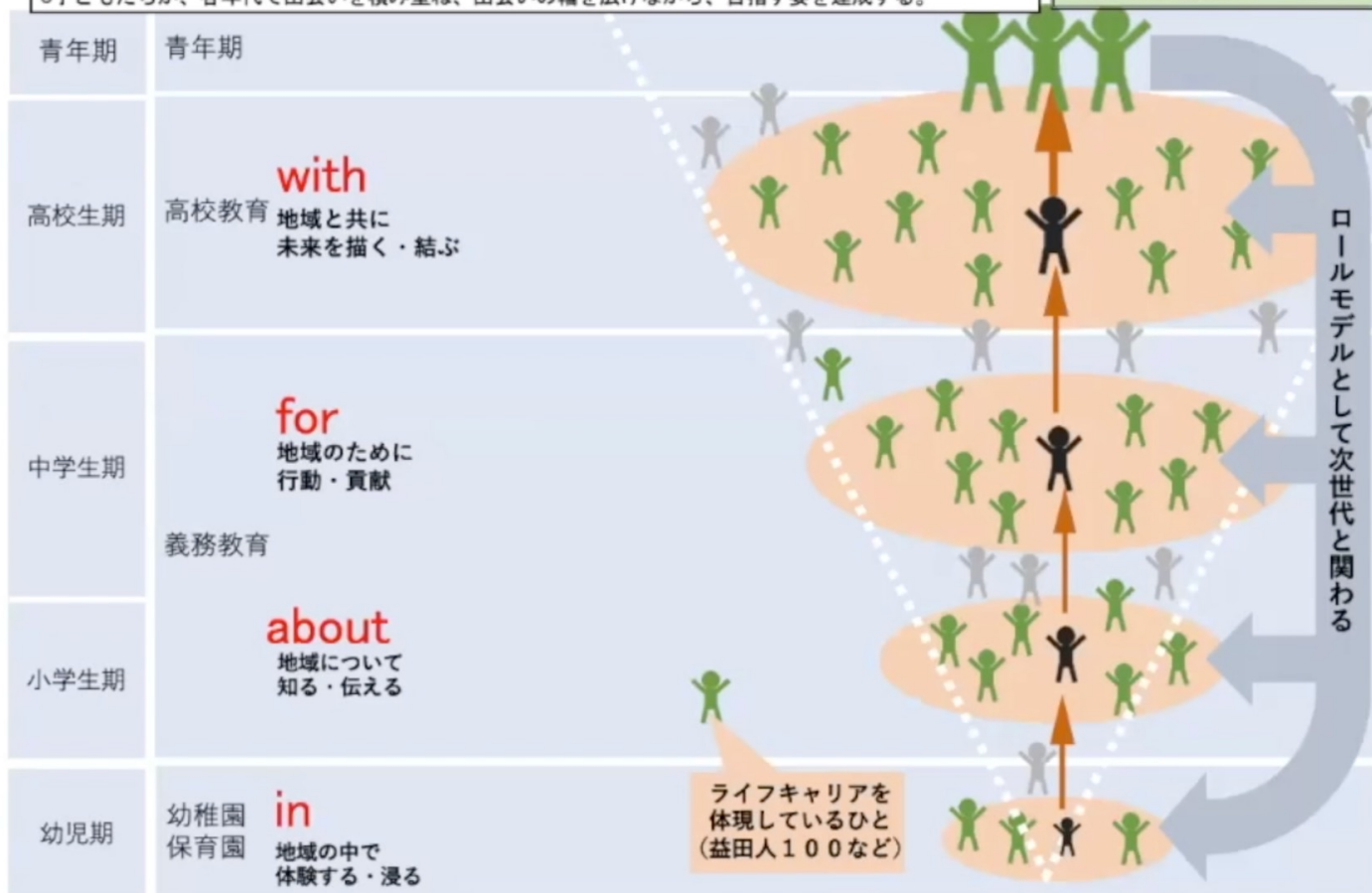
【匹見3地区】
匹中会

「益出入100」を軸としたライフキャリア教育の流れイメージ図

○保幼・小・中・高など、すべての年代を通じて、活動の軸に「ライフキャリアを体現しているひと（益田人100）」との出会いを位置づけるプログラム。
○子どもたちが、各年代で出会いを積み重ね、出会いの輪を広げながら、目指す姿を達成する。

【目指す姿】

○日々の目標に対し、能動的に生き、自らの可能性を広げることのできるひと



**「益田版カタリ場」の取り組みは
何をやってきたのか**

**相互承認関係をつくる
非認知能力を向上させる
社会に信頼感をつくる**

**人々が自律する
自己肯定感を持てるようになる**

「ことば」を使いこなして「対話」する関係

益田版「カタリ場」

愛知県豊田市の 「tsumugu」プログラムへ ひろがる

豊田市 中学生と地域の大人による対話プログラム実証事業
とよたの対話プログラム～tsumugu～

人生を
ふりかえり

tsumugu(つむぐ)

語り合う

語り

●開催日程

任意の日程にご参加ください
11月 5日（火）@稲武中学校 満員御礼
11月29日（金）@豊南中学校
※生徒数が多いため午前追加 10時～12時半
12月 6日（金）@石野中学校 残りわずか
12月13日（金）@藤岡南中学校
時間は全て13時～16時

●参加要件

- ・中学生と対話したい方
（特別なスキルや経験は必要ありません）
- ・事前研修（プログラム体験会）への参加
任意のいずれかの日程にご参加ください
10月21日（月）@ZOOM
11月14日（木）@豊南交流館
11月21日（木）@ZOOM
12月 5日（木）@市民活動センター
時間は全て19時～20時半

●参加方法

Googleフォームからお申込みください
申込期限 11月8日（金）2次締切
当日の流れなどの詳細は、
お申込みいただいたLINEオープンチャットにご連絡します

参加
券
取
得
中



豊田市 中学生と地域の大人による対話プログラム実証事業
とよたの対話プログラム～tsumugu～

中学生と対話してくれる とよたの先輩募集!!

こんな方におすすめ

- 忙しい毎日の中で一度立ち止まって自分の人生を振り返りたい
- とよたのおもしろい人たちと一緒にこれまでとこれからの人生について対話したい
- 中学生と一緒に生き方について対話したい

とよたの対話プログラム～tsumugu～ってなに？

中学生とナナメの関係の先輩が1対1の対話を通して、これまでの人生を振り返り、これからどうありたいかを一緒に考えることで、想い・関係・地域をつむぐプログラムです。

何をすればいいの？

事前研修（プログラム体験会）では、プログラムの概要説明を受け、とよたの先輩と対話するプログラム体験会にご参加いただきます。プログラム当日は、中学校を訪問し、これまでとこれからの人生について中学生と一緒に考え、対話をお願いします。

特別なスキル、経験は必要ありません!!

主催：豊田市 生涯活躍部 市民活躍支援課
運営：ゼロいち 0→1 深見太一
(TEL: 090-4234-7967)
(E-mail: ferown18taichi@gmail.com)

応募に関する詳細は
裏面へ

自分が「ひと」との「あいだ」に位置づいている

「ひと」の中に自分を見出す

自分の中に「ひと」を感じとる

⇒自分が〈社会〉に受けとめられ、受け入れられている

自分が「ふるさと」を持っている

(3) 価値多元的な展開：まちを学びの場にする (沖縄県那覇市若狭公民館)





こども食堂



移動図書館／那覇市立若狭図書館



パーソナルサポートセンター



まちづくり協議会・小学校・PTA

地域主体で 活動継続



コロナ禍における屋外での地域交流企画として月に一回開催



(4) 少子高齢人口減少社会を「関係」から考える

集落を消滅の危機から救う「自給家族」



「源流米ミネアサヒCSAプロジェクト」

一般社団法人押井営農組合



以下、鈴木辰吉氏提供スライド/2022.9.17ソーシャルイノベーター研修自給家族.pdf

「自給家族」は自治の営み

生産者と消費者が一つに
なって農村と食を守る

「自給家族」は、土地に根差した食と農の営み。農の営みが続く限り集落は存続し、家族に安全な食の確保が保証されるシステム。

迎える「少数化社会」の山村は、開かれた共同体中心の社会（Open Common「関係人口」と共に作る新しいコミュニティ）によってのみ存続できる。

「自給家族」は押井の里の登録商標です



誰も損も得もしない、みんなが 少し幸せになる「自給家族」

ここがポイント

- ① 集落が家族になる ⇒ 新たな家族を増やす
- ② 地域まるっと中間管理方式 ⇒ 現代の庄屋
- ③ 新たな消費志向 ⇒ 食の「自給」と安心感
- ④ 山村集落の存続 ⇒ 美しい農村景観を守る



ゆるゆると、楽しんで集落を守る！

米一俵を30000円で

米を買うだけではない

「かかわり」をつくる

生活をともに維持する

農業をともに維持する

農地をともに維持する

環境をともに維持する

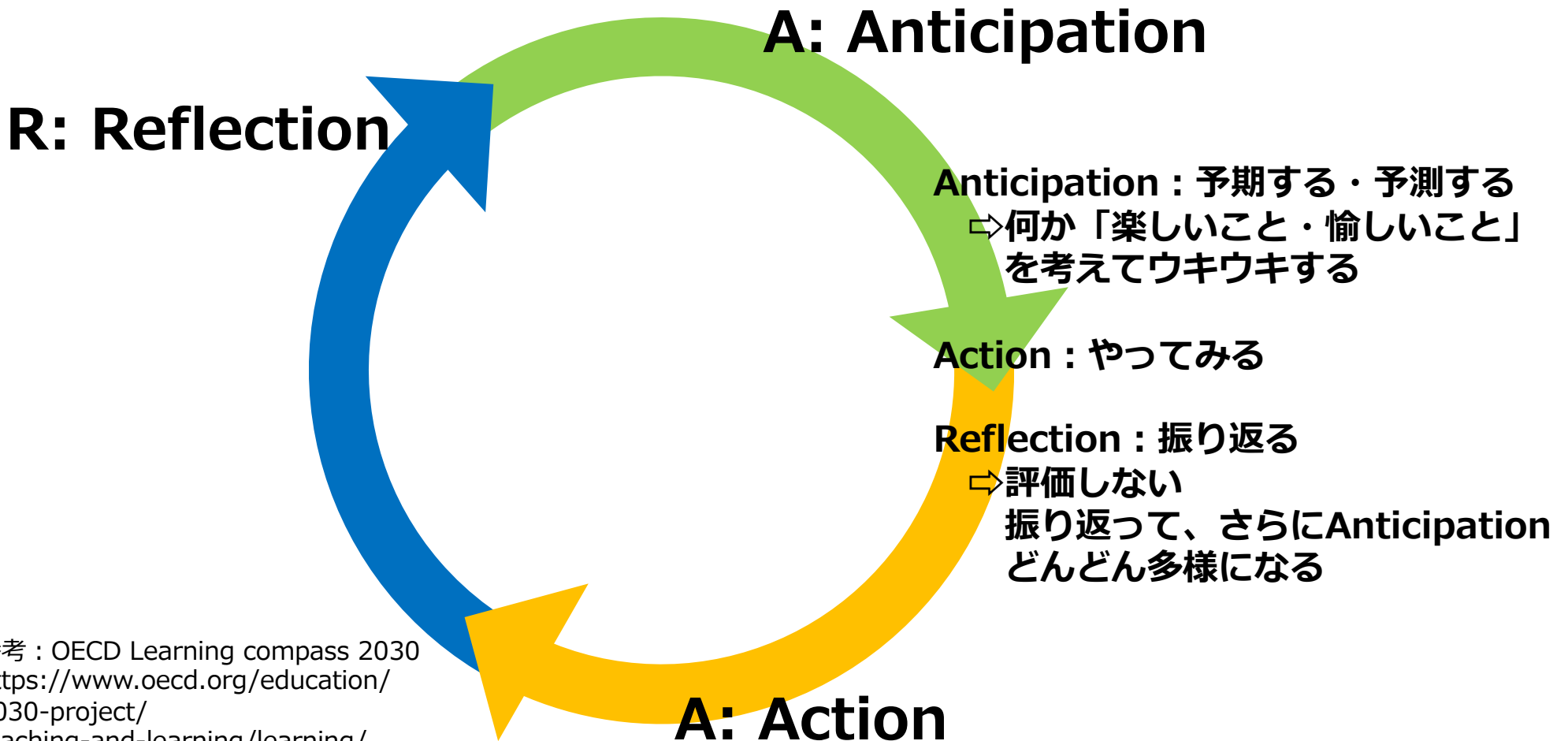
「かかわり」を通して

農業における物質代謝を適正化する



**ある種のアソシエーションとしてのコミュニティ
よそ者が「当事者」になる**

7. PDCAからAARへ



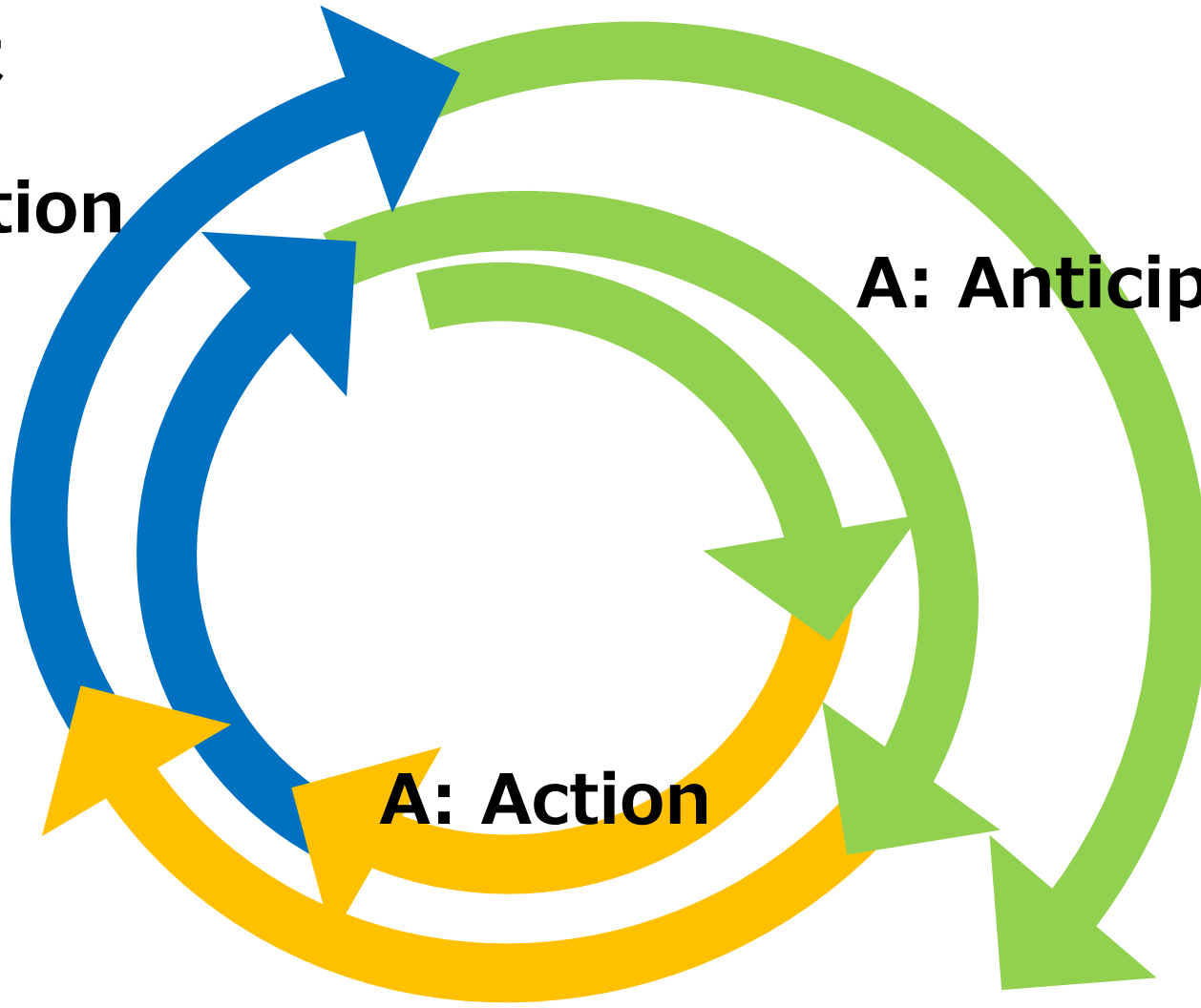
参考 : OECD Learning compass 2030
[https://www.oecd.org/education/
2030-project/
teaching-and-learning/learning/
learning-compass-2030/
in_brief_Learning_Compass.pdf](https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/learning-compass-2030/in_brief_Learning_Compass.pdf)

実際は

R: Reflection

A: Anticipation

A: Action



コミュニティはAAR連鎖運動をつくりだす「場」

空間だけではなく、
人々がともに生きる「運動」としてのコミュニティへ

「運動」を駆動するセンス・オブ・ワンダー

楽しいこと・楽しいこと・面白いこと
わくわく感

⇐自分を感ずること・固有性＋他者との共有
CompassionとWell-being
他者とともにあること

8. FOR ALLの上にBY ALLへ

「学び」 = 「よきこと」に気づき、実践する
⇒社会に「共通善」を実践する営み

「学び」を「公共財」として実装する事業

全員が当事者になる

**自分を尊重してもらえる
相手を尊重している**

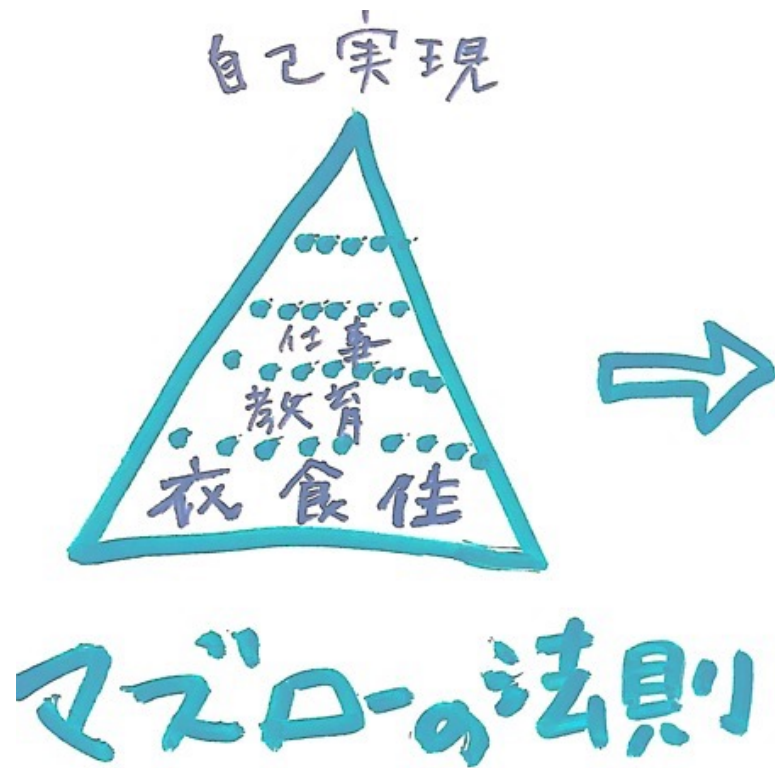
**尊厳と自己肯定感・自己有用感
役に立てる・認められる**

信頼感と想像力



Compassion

9. 「はまる」と、「育つ」



Maslow's Law



Jigsaw-puzzle model

上田假奈代氏提供資料

10. プロセスそのものが目的化する：AAR代謝へ

「ひと」との「あいだ」が自分の居場所になる

「ひと」が「ふるさと」となる

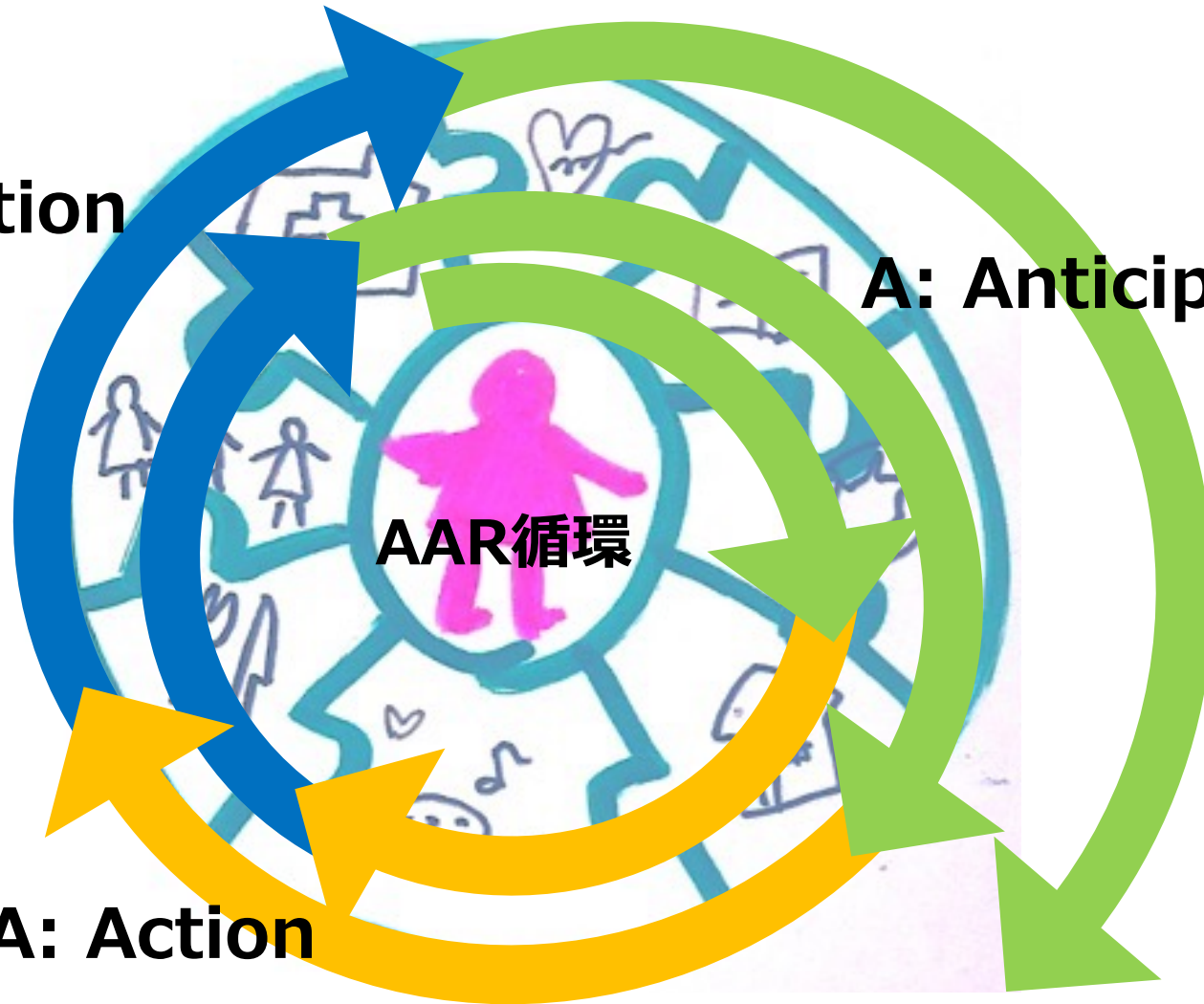
「ふるさと」とは自分に「誇り」を持てること

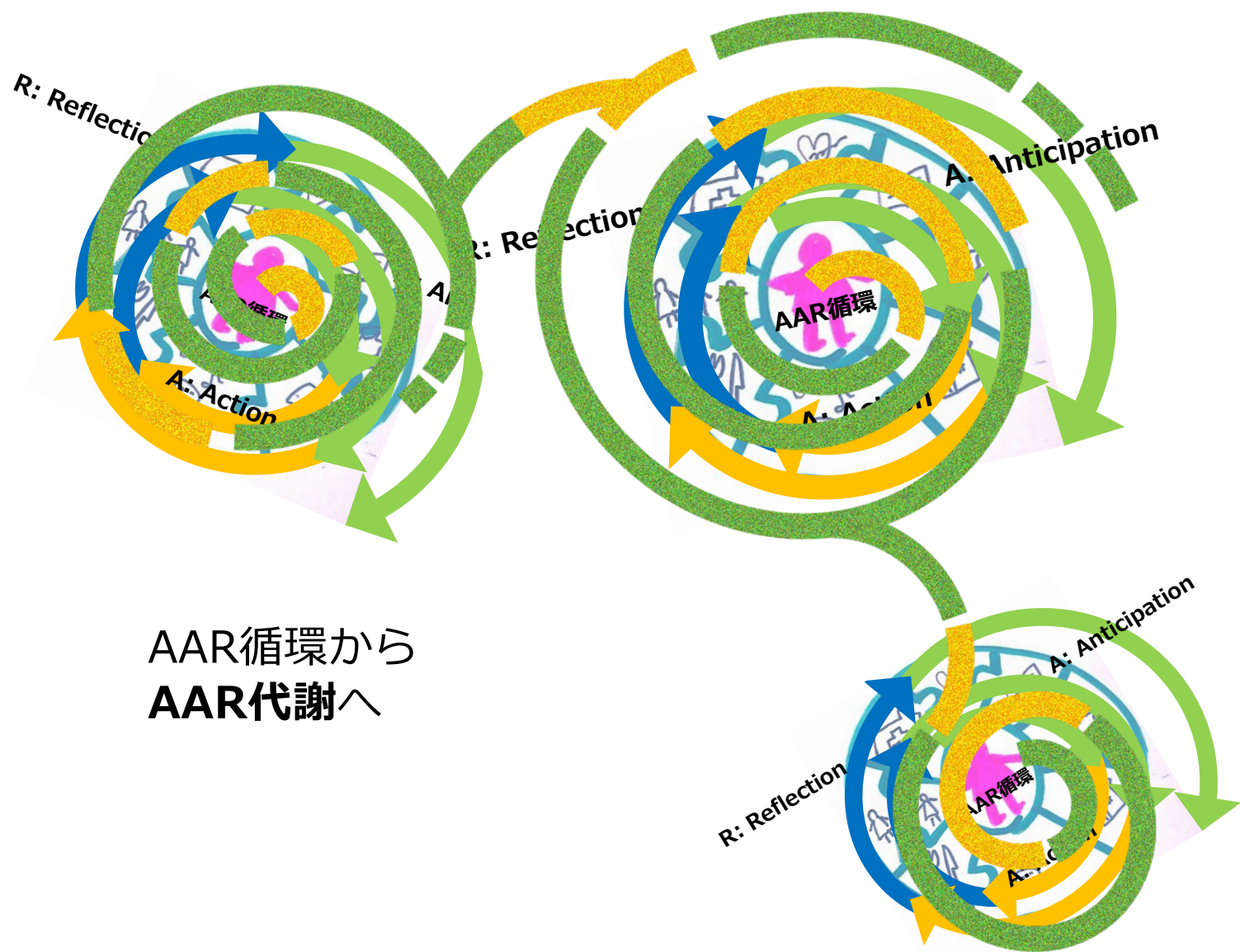
R: Reflection

A: Anticipation

AAR循環

A: Action





AAR:

**楽しいこと、愉しいことが連鎖して
人が「よき存在」へとなる運動**

そのためには、「よき関係」が必要

Sense of Wonder

Compassion

Well-being

どれもが「よき関係」=承認関係を必要とする

⇐承認欲求の時代=VUCAの時代=プロセスの時代

11. Be-ingであることでDo-erになる

人と人との間にきちんと位置づけられる：Be-ing

人のために「よきこと」をしないではいられなくなる：Do-er

⇐ジグソーパズル型AAR代謝

巻き込みあうことで、共創する

ケアしあうかかわりの在り方

このかかわりが「ふるさと」

Well-beingとDo-erを結びつける

⇒Well-beingな存在はDo-erである

Be-ing であることで Do-er になる

「よきこと」をつなげる〈社会〉へ

「よき存在」であるDo-er

「よきこと」をする存在

Well-beingな存在(個人であり社会である私)

ケアする存在